会員の広場

# 看護学部教授就任のご挨拶

看護学部（療養生活支援看護学領域臨床医学）　教授　安田 稔人

令和２年４月１日に大阪医科大学（現大阪医科薬科大学）看護学部教授に就任しました。就任後、早や２年３か月が経過しようとしていますが、医学部から看護学部に移ったことで、環境の違いもあり、多くの新しいことを経験し、瞬く間に時間が過ぎたというのが率直な感想です。これからも微力ながら、良き医療人の育成に力を注ぐ所存ですので、ご指導の程、よろしくお願い申し上げます。

私は1988年（昭和63年）に大阪医科大学を卒業し、小野村教授の時代に整形外科学教室に入局し、その後、阿部教授、木下教授、そして現在の根尾教授のもとで、整形外科の研鑽を積んできました。また、多くの関連病院で整形外科の基礎をご指導いただきました。これまでお世話になった大学の皆さんや同門の全ての先生方には大変感謝しております。私にとって小野村教授の時代に整形外科学教室に入局できたことが何物にも変え難い財産であり、令和３年12月31日にご逝去された小野村敏信先生に心より感謝するとともに、ご冥福をお祈り申し上げます。

整形外科学教室在職中は、足の外科を専門として、臨床、研究に携わってきました。看護学部に在籍する現在も大学病院で足の外科専門外来を行っており、科研費を獲得して、アキレス腱断裂に対する再生医療（多血小板血漿を用いた手術治療）の臨床研究を開始予定です。また、医学部時代は講師、准教授と昇格するとともに、整形外科の後進の指導だけではなく、学生教育の重要性も認識するようになりました。医学部での学生教育の経験を看護学部でも活かしていきたいと考えています。看護学部では教育に関わる時間がより長くなりました。本学はご存知のように、多職種連携教育に力を入れており、これまで臨床系の医師としてチーム医療の重要性を経験してきた立場から、看護学部においても、医師の視点や考え方も伝えた上で、看護学部の学生の多職種連携教育に少しでも力になりたいと考えています。薬学部を含めた３学部の学生の合同カンファレンスには、この２年間できる限り参加し、ファシリテーターとして関わってきましたが、学生の意見を最大限に尊重しながら、気になった点を伝えて学生たちと討論しています。私自身、学生とともに学んでいけたらと考えています。

私が専門とする運動器は、これからの超高齢社会において重要な分野であり、看護学部の学生にとっても運動器を学ぶことは非常に意義があると考えています。要支援、要介護になる原因の４分の１は運動器の障害です。現在、骨、関節、筋肉や中枢・末梢神経系の講義に加え、演習形式では運動器のフィジカルアセスメントや災害看護として包帯の巻き方、三角巾の当て方、止血の仕方、副子の当て方、搬送の仕方

などを学生に教えています。また、急性期成人看護学領域の病院実習のカンファレンスにもできるだけ参加するようにしています。今年度からの新カリキュラムでは新たに「リハビリテーション医学」が講義に組み込まれました。残された在職期間に看護学部で、どれだけのことができるかわかりませんが、これからの良き医療人の育成に力を注ぐという初志を忘れずに、頑張っていきたいと思います。

最後に、来年2023年10月26日(木)、10月27日(金)に学会長として第48回日本足の外科学会学術集会をグランフロント大阪にて開催する予定です。学会テーマは「これからの足の診療 ―チームの力、個の力―」としました。これからの足に診療においては、足の外科医一人一人の知識や技能、研究力の向上は大変重要ですが、同時にチームとしての力を向上させることも欠かせないとの思いを込めております。医師だけでなく、看護師を含めた多くの職種の皆様にご参加いただき、足について多職種間で熱い討論ができる有意義な学会になればと思っております。現在、実り多い学会のなるよう、大阪医科薬科大学整形外科学教室、同門会をあげて鋭意準備に取り組んでいるところです。一人でも多くの患者さんが痛みなどの足の悩みから解放されるために、本学術集会が、その一助になれば幸甚です。今後とも、ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

大阪医科薬科大学　看護学部棟